

令和2年度 理科 授業充実（改善推進）プラン

昨年度のプランの検証

- ・実験や観察を多く取り入れ、実物に触れることができる時間を取り入れたが、既習事項とのつながりを持つことができなかった。
- ・基礎知識の定着を図り、それを活用した考察に取り組むことができた。以前に比べ、自分の考えを文章で表せる力がついてきている。
- ・各領域についての既習事項の振り返りを行ったが、思うように定着しなかった。今後は重要語句に内容を絞るなどの工夫が必要である。

理科における調査結果の分析

内容別結果の分析	<p>【1学年】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 校内平均正答率をみると「活用」は目標値を上回っているが「基礎」については下回っている。 2. 内容別正答率をみると、「てこのはたらき」「電気の利用」について、目標値を上回っている。その他は下回っている。 <p>【2学年】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 校内平均正答率をみると、すべての内容において目標値を下回っている。 2. 内容別正答率をみると、「」「火山」について目標値を大きく下回っている。 <p>【3学年】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 校内平均正答率をみると、すべての内容において目標値を下回っている。 2. 内容別正答率をみると、「生物と細胞」「動物の分類と生物の進化」について目標値を大きく下回っている。
観点別結果の分析	<p>【1学年】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 4観点とも、目標値を下回っている。 2. 特に「関心、意欲、態度」の観点下回っている。 <p>【2学年】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. すべての観点において、目標値を下回っている。 2. 「自然事象についての知識・理解」において、大幅に目標値を下回っている。 <p>【3学年】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. すべての観点において、目標値を下回っている。 2. 「自然事象への関心・意欲・態度」において、大幅に目標値を下回っている。

授業改善のポイント（調査結果等を踏まえて）

<p>【1学年】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実験・観察を積極的に行い、実験観察の基礎的技能の習得に重点を置く。 2. 科学的な思考力・表現力を高めるため、既存の知識の習得に重点を置き、その上で科学的思考力、表現力を育てていく。 3. 小学校での既習事項と中学校での学習内容を結びつけながら授業を展開していく。 <p>【2学年】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身近な自然事象を例に、学習した内容を日常生活に置き換えるような授業を作る。 2. 理科に対する興味を引き出すため、講義中心ではなく、実験・観察中心の授業を展開する。 3. 重要語句の意味や実験器具の取り扱い方など、問題演習を繰り返し行い、基礎学力の定着を図る。 <p>【3学年】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 既習事項との繋がりを意識しながら、授業を展開し、基礎学力の一層の定着のため、復習に力を入れる。 2. 身近な自然事象を例に、学習した内容を日常生活に置き換えるような授業を作る。 3. 理科に対する興味を引き出すため、講義中心ではなく、実験・観察中心の授業を展開する。

授業改善策

<p>【1学年】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実験・観察では、実験器具の充実を図り、一人ひとりが主体的に取り組める授業を意識する 2. 発表の場を意図的に増やし、自分の考えをまとめ相手にわかりやすく伝える力を身につけていく。 3. 小学校での既習事項を確認しながら、重要語句などを丁寧に教えていく。 <p>【2学年】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 興味・関心を高めるために、身近な自然事象に目を向けられるよう、教材を工夫する。 2. 観察や実験などを授業に多く取り入れ、授業を展開していく。 3. 各領域について、一度学習したらそれで終わりにするのではなく、定期的に振り返り、定着を促す機会をつくる。 <p>【3学年】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 既習事項を定期的に振り返り、今までの学習内容の定着を図るため、小テストなどを充実させる。 2. 様々な理科に関する事象を紹介し、今までの既習事項と結びつける。 3. 実験・観察に取り組み、結果に基づき考察を自分自身で考え書く時間を意図的に設ける。
